

2013年5月27日 第12回 上田市公共交通活性化協議会 第12回上田市地域公共交通会議

会長あいさつ 上田市都市建設部部長 清水会長 (以下 清水会長)

変更委員紹介 事務局 上田市都市建設部地域交通政策課 藤澤課長 (以下 藤澤課長)

資料確認 藤澤課長

議題

(1) 上田市公共交通活性化協議会協議事項について

ア 平成24年度決算報告について

事務局 資料1 資料説明

事務局 会計監査報告(監事欠席のため)

質疑等 無し

承認

イ 平成25年度予算(案)について

事務局 資料2 資料説明

質疑等 無し

承認

ウ 平成24・25年度地域公共交通確保維持改善事業に係る事業評価について(報告事項)

事務局 資料3 資料説明

質疑等 無し

承認

エ 運賃低減バス運行計画（案）について

事務局 前回協議会以降、その後の経過について説明

3月中旬から下旬にかけ、市内9つの地域協議会において本計画（案）について説明
各地域から多くの意見を頂いたが、多くは運賃低減施策についてぜひ進めてほしいと
いった意見が大勢を占めた。

一方、ダイヤの充実等乗りやすさの改善を求める意見なども頂いており、市としては
10月の実証運行開始後も定期的に乗降調査やアンケート調査等を通じて利用状況を検討
しながら、さらに利便性の向上、輸送人員の増加につながるよう改善しながら進めてい
きたい。

事務局 資料4 資料説明

清水会長 タクシーに対しての市の考え方（運賃低減バス施策推進）

今回の路線バスの運賃低減施策は、タクシーと競合するものではなく、新たな需要、新たな公
共交通の利用者を増やしていく、全体の公共交通の利用者を増やしていくための施策である。
運賃低減施策により、街中に出てくる人を増やす、より多くの皆さんを中心市街地へ連れてくる
など、人の動きを活発にすることにより、公共交通全体の利用者の増加、地域公共交通全体の活
性化を目指していくものである。

例えば、バスで街中に来た方が、買い物をして荷物が多くなれば、帰り、少なくとも片道は、
タクシーを利用する人も増える。

バス施策により、タクシーの利用者が減ってもいいというものではなく、タクシーも、市民に
とってなくてはならないものである。

観光という面で、市では観光をリーディング産業と位置づけてこれまで色々施策を進めてきて
いる。観光は地域の活性化につながると考えており、そのことから、観光タクシーの役割は大
きいものがある。

タクシーの皆様に対しての直接的な減収補てんは難しいが、事業費に対しての補助という観点
で対応を考えていく。その最たるものとして、観光タクシーにより、観光地を周遊するなどの事
業を、商工観光部等の関係部局とも連携しながら進めていきたいと考えており、タクシーの皆様
からも是非ともご提案をいただきたい。

また、併せて上田駅前には、観光タクシーを含めたタクシーの利用案内板や公共交通利用案内
パンフレットなど、利用促進啓発に係る取り組みを行い、行政も一緒になってタクシーを含めて
総合的に（活性化を）考えていきたい。

一例として真田三代周遊ツアーが6月から始まる。中央病院ロータリーにはタクシー専用乗降
所の設置も予定している。

今回バス施策については、3年間の実証運行を行うが、3年後に検証を行うということではな
く、10月からの実証運行開始後は、定期的に利用状況等を検証しながら、必要に応じて、改善す
べきところは、改善しながら、公共交通全体の利用促進を進めていきたい。（タクシーの利用状況

も注視していきたい。)

結果として、輸送人員が確保されないなど、運賃低減効果が現れない路線については、減便や路線廃止もやむを得ない覚悟で臨みたい。

質疑等

長野県タクシー協会上小支部 中島支部長（以下 中島委員）

観光によるタクシーの活性化も大事だが、ベースとなる日常の利用者も大事。

資料説明（別紙「安全だね 安心だね タクシーのある暮らし」）

運賃低減バス運行計画案によると、タクシーとの運賃格差が大きく、タクシー利用に影響大

要望事項として、①運賃低減を通勤・通学の定期券に限定 ②実証運行 3 年を短縮 ③バス路線から離れたいわゆる公共交通空白地域へのタクシー利用券的なものによる外出支援 を市長等に要望してきた。この辺りを踏まえてご協議願いたい。

清水会長

先ほど 3 点要望事項を挙げられたが、①について、通勤通学は今回の大きな柱であることは間違いなが、それだけではなくて高齢者を含めた外出支援、あるいは今まで乗っていなかった人に乗ってもら、限定するのではなく、広い範囲で（全市で）考えていきたい。③については現在も 3 年間はそのままではなく、来年の半年での状況、調査結果を踏まえて、次の残った期間をどうして行くか検討しながら、来年以降やっていきたい。

また、高齢者や介護認定を受けた方が、既にタクシーを病院への送迎を市としても福祉的な部局で実施しているが、そういうものについては今後の状況を見ながら判断をしていければと考えている。

上田市自治会連合会（上田地域代表）林委員（以下、林委員）

今日は 4 名、自治連からこの会議に出席しているが、自治連の役員会で運賃低減バス運行計画の説明を受けた。その時の反応としては、特段反対意見は出ないばかりか、結構好意的なものであった。

要は少しでも地域の皆様が利用しやすい状況（をつくること）に、ようやく市が目を向けてくれたかという想いであるが、これからが大事だと思う。ノーマイカー・脱マイカーに、自治連、自治会がどんな形でお手伝いできるか考えていきたい。私どもとすれば地域の人も利用しやすいしありがたいことである。

長野県タクシー協会上小支部 田中副支部長（以下、田中委員）

この件については（市と）これまで何度となく話をしてきた。100%反対というわけではなく、バスも電車も大事であると考えている。ただ、今回の提案（計画）について、あまりにも極端すぎる提案であって、中島委員からも話しのあったように、タクシーにとっては死活問題である。利用者は安いほうがいいと思うし利用しやすいと思う。ただ、中身を知らない、バスが（国・県・市の）補助によって運行しているということ（利用者の多くが）知らない上に、さらに今度値段を下げるというのはどういうことなんだと。それだけバス会社というのが中身がいいのかと。極端な話そういうことになってしまう。どれだけの市民の方が、低減バスの中身についているのかは疑問である。バスは補助によって運行され

ているんだよということ（市民の方に）よく分かって頂かないといけないし、「バスの運行補助ではなく、乗車する人に対する補助」であるという発想の転換とあるが、補助はこれからも続く。それは良いとしても、補助というのは、（バスがないと困る）高齢者や学生に対するものが補助がないかと思う。

やっていただくのはいいが、対象を（高齢者や高校生に）絞って、段階的に徐々にやっていくのがいいのではと思う。先ほど（実証運行期間）3年間に限定しない（3年の中で定期的に見直しをしていく）とのことですが、最近市のほうでお話しさせていただいたときに、なんととしてでも1年はやっていくし、どうしてもうまくいかない場合については（タクシーの）割引する、そういう確認を得ている。賛成するしないに関係なく、その辺りはハッキリしておかなければならない。

それと、観光の話が出たが確かに事業費と出させていただくことはお願いしたいが、今回のことと観光タクシーのことは違うことだと思う。観光事業は結構だが、公共交通の話とは別個のことと思っている。（最後に、）早急にいっぺんにやりすぎではないかと思っている。

清水会長

タクシーの立場になって、少しでもいまよりプラスアルファのものはどうかということで、市として提案し、業界に皆さんと一緒に今後はやっていきたいと思います。少しでも要望して上田市としてやっていきたい。観光タクシーは定額制。安心して利用者に案内していただける。（目的地の）近くまで行けるため、タクシーであると（バスに比べ）移動時間が短縮できる。需要はあるのではないかと、逆に需要を呼び込まなければいけない。タクシー業界の盛り上げについても市としても全庁的に取り組んでいきたい。

全国的には2例ほどある中で、部分的でなく上田市全体でさせていただきたい、提案させていただきたい。

上田市自治会連合会（丸子地域代表）小澤委員（以下、小澤委員）

タクシー業界のお話を聞くと、業界とすれば大変な事態と思うが、公共交通を利用する立場からすれば、過疎化に合わせてこのままでいけばバス路線自体が外されてしまうという心配が大きい。今回このような形で、いずれにしても利用してみようじゃないかということに対してはもっと前向きに取り組んで考えてい必要があるのではないかと思う。タクシー業界の方も企業努力の中で考えている。ドア・ツー・ドアで、交通弱者の方も安心していけるというタクシーとしてのメリットもある。特に先ほどの表を見ると、非常に厳しい見方をしているが、まずはやってみて、その中で見直して、お互いに共存共栄できるか、この辺はぜひやってみていただきたいと思う。

丸子地区とすれば、西内・東内の地区の高校生が現状では高額な費用がかかり、金銭的な理由によって親が送迎していて、大屋駅周辺の朝夕の渋滞の大きな原因になっているが、今回の運賃の低減は、公共交通全体の活性化の一環としての提案なので、ぜひ実施してもらいたい。もしいろいろな問題が起きたときには、会長が言ったように見直しをしながらタクシー業界の人と共存共栄できるような形を取っていくように、まずはやってみるということからぜひお願いしたい。

信州大学工学部特任教授 小山副会長（以下、小山副会長）

タクシー業界の配布資料の中で、夜間等の緊急時の個別輸送、高齢者・交通弱者の外出・休日の公共

交通については、バス料金がどうなろうと、ずっとタクシーが役割が果たしていかなければならないものではないか。それと上田駅から菅平や、鹿教湯までのバス運賃が下がるとタクシーは勝負にならないといっているが、元々1,300円と9,000円で勝負にならない。こういう数字を出すのならむしろ、これまで500円や600円でギリギリいけたのが、300円になることでタクシーが減るのではという数字を出してもらわないと、なかなか条件については予測的には正しいかどうか分からない。(タクシーの予測は)ちょっと心配しすぎではないかと思う。

上田市自治会連合会（真田地域代表）横沢委員（以下、横沢委員）

前回運賃低減バスの話があった後、地域で話をする機会があったが、高校に子を通わせている親が、現行の定期代が非常に高いということで、片道は定期、片道は自家用車でやっているが、運賃が安くなることで両道（往復）バスで行けるようになるといった意見をする人が何人かいた。公共交通を利用する、体験することは大事なことだと思う。小さい頃からできるだけ公共交通に慣れ親しんで、それが当たり前という雰囲気になっていくのが大事だと思う。期待している人は地域に結構いる。

小山副会長

タクシー業界から、効果をちゃんと検証して賛成する委員についてはそれについて責任を持ってといわれているので、その辺については、一人一往復 世帯 1人利用することでバス利用を増やしてもらうという責任もあるし、32ページに市職員のバス利用促進とあるが、現在松本市の職員は基本的にはマイカー禁止であるのであるから、(上田市も)ぜひ率先して、そういう施策を入れるというのであれば(マイカー禁止を)するということで、賛成なりしてもらったほうがすっきりすると思う。

清水会長

当然市としても、松本市との状況とは若干違うということもあるので、一概に全部取り入れるというわけにはいかないが、今は確かに(バス利用者は)少ないというのが実情であって、市民の日常の足としての公共交通の確保という面で、乗ってもらうということで市としてもそれなりの対応をしていきたいと思っている。1.5倍という話があったが、1世帯(1人が多く)1ヵ月 1往復乗れば、1.5倍になる。この1.5倍というのがどういうことかといいますと、今でもバスに対して1億円以上市としてバス事業者に減収補填という形で支出し運行してもらっている。今払っているこの1億円を少しでも下げたい、同じお金を使うなら、市民に(バスに)乗ってもらって生きた形でこのお金を使ってもらいたいというのが元々の発想であって、市民が乗るのに補助するという考え方、できるだけ(支出を)抑えたい、逆に(利用者が)2倍になればずっと減る、それだけ税金を違うことに使えるわけであって、究極にはそうなればいいことであって、こんなことでこの施策を提案させてもらったのである。

林委員

別所線(の利用人員)が増えた主な原因は、自治会の回数券と観光客の伸び。自治会の回数券というのも利用促進の一つの方策かと、別所線の取り組みがいい参考になるのではと思っている。別所線(570円)と塩田線(400円)で比較すると、別所線は高いが、観光客が多く乗っている。料金だけで(乗る乗らないを)測るのはどうか。この例が何かの参考になるのではと思う。

豊殿地域循環バス運営委員会 顧問 神林委員（以下、神林委員）

公共交通が過渡期に来ている中で、利用促進を講じなければならないという意味合いだと思うが、地域としてはバス・鉄道・タクシーというのは絶対必要なもの。一つが欠けても地域住民は間違いなく混乱を起こす。ただこういうことをやる場合は、3年くらいやらないと結果は見えてこないと思う。今回の施策は新しい利用者をどう発掘するか、そこが重要な部分ですから、自治会連合会、地域協議会は公共交通の必要性をしっかりと捕らえていただき、地域の中で、（公共交通が）なくなる前にしっかりとした懇談なり、話し合いをしていただいて、公共交通の必要性をこの3年間の中で（考えてもらうことを）お願いしたい。また、3年間やることによって利用者の動向が見えてくるのではないかと思う。バスを利用する人、鉄道を利用する人、そしてタクシーを利用する人、タクシーのいいところは時間に限定されず自由なところ。どんな形をとっても3年間検証して、上田市の地域公共交通の実態を皆で状況を掴む中で、お客さんの動向を掴みながら、将来の公共交通をどうしよう、そういう検討に入ってもらうのが一番いいのではと思う。ですからタクシー業界の皆さん方も心配はあると思うが、やってみて3年間で

何らかの方向性を出しながら将来の公共交通を検討してみる、そんな方向でやっていってもらえばいいかと思う。何かをやらないと変わらないと思う。いずれに今回の施策はやって、立証してもらって、上田地域の公共交通の利用者動向、アンケートもありますから、そんな中でしっかりとまとめて言ってもらえばいいかと思う。

清水会長

実は6月議会で先ほど予算を説明したが、それとは別に（利用促進の）750万円ほどPR策に対する予算を上げて生きたいと思っているので御承知おきいただければと思う。

小山副会長

今、日本は少子高齢・人口減少であり、結構難しいことをやろうとしている。ただし今のままではバスはなくなります。別所線の利用者数が増えたことについては私はほっとしている。長野市、須坂市、千曲市の3つの市で長野電鉄の屋代線は廃止になってしまった。上田別所線だけはぜひ維持していってほしい。公共交通、もちろんタクシーも含めて地域と連携して交通弱者を守るために上田市全体として取り組んでいってほしい。

いくつかご意見を頂きましたが、会としては進めていくということでご理解いただいたということでよろしいでしょうか、いかがでしょうか、そういうことで進めていきいってよろしいでしょうか。

（はい、いいです の声複数あり）

ありがとうございます。今後それぞれの担当する機関の皆様とは話し合いの場をより以上もって進めていくことを考えていますので、また、委員の皆様も今回の案に対してぜひPRするなり、ご自身で乗るなり、また、タクシーも必要な時には当然乗るということで、こういった面でタクシーと絡めないかということもあればまたご提案をいただければと思っていますので、よろしくをお願いします。

承認

オ 平成 26 年度地域間幹線系統確保維持計画について

事務局 資料 5 資料説明

上田バス 舟見常務（以下 上田バス舟見委員） 資料 5-1 資料説明

千曲バス 営業部 三浦次長（以下 千曲バス三浦委員） 資料 5-2 資料説明

清水会長

新規導入のバスの定員はどのくらいか。

千曲バス三浦委員

上田バスは大型なので 70 人、千曲バスは中型で 50 人である。

承認

カ 平成 26 年度地域間幹線系統確保維持計画について平成 25 年度上田市生活交通ネットワーク計画（地域内フィーダー系統確保維持計画）について

事務局 資料 6 資料説明

上田バス舟見委員 資料 6 資料説明

千曲バス三浦委員 資料 6 資料説明

小山副会長

気になる点は、昨年度同様の（目標）数値というもの。各路線の運行コスト 1 キロ当たり 390 円以内というのは千曲バス独自基準の目標設定か。

千曲バス三浦委員

これについては、千曲バスのフィーダー系統路線で現在達成できている数値であって、引き続きこの水準を目標にしていきたい（千曲バス独自基準（目標））。

小山副会長

26 年度～28 年度という、今でも為替レートが下がっている中で、単純に考えて 25% くらい為替の影響で燃料代が高騰するが、こういうもの（基準）をそのまま使ってどうにかなりそうなのか（目標が達成されるのか）。

千曲バス三浦委員

軽油が上がった場合については現実的ではない数字になってしまうが、先の分からない数字よりも実績ある数字を目標として記載させていただいた。

小山副会長

それはよく理解できるが、安倍内閣が2%の物価上昇率を目標としているのだから2%分を加味した数値にしたらどうか。根拠がある（政治的経済政策）ものだから（目標数値に）入れておいたほうが、目標を下回ったときにとやかく言われたいのではないか。

清水会長

3年間あるけども、毎年見直すということによいか。

千曲バス三浦委員

毎年の状況として、目標数値に反映させたい。

承認

キ（仮称）中央病院前バス停新設について

丸子地域自治センター 建設課 資料7 概要説明

千曲バス三浦委員 資料7 資料説明

JRバス関東名和委員 資料7 資料説明

丸子地域自治センター 建設課 資料7 資料説明

承認

ク 武石デマンド交通発着限定地の移転について

武石地域自治センター 建設課 資料8 資料説明

承認

ケ 豊殿地区循環バス無料月間の実施について

神林委員 資料9 資料説明

コ 豊殿地区循環バスのダイヤ変更について

神林委員 資料10 資料説明

承認

サ 夏休みキッズパスについて

事務局 資料 11 資料説明

承認

シ その他

事務局 資料 12 資料説明

上田市公共交通活性化協議会規約の一部改正（案）

上田市地域公共交通会議設置要綱の一部改正（案）

承認

国土交通省北陸信越運輸局 長野運輸支局

首席運輸企画専門官（企画調整担当）中牧委員（以下 中牧委員）

低減バスの関係ですが、タクシー業界の立場、地元住民の立場、いろいろとあった中でやるべきではないかということでご承認されたということになったが、とりあえず半年後にしっかり検証をして（実施して）いていただきたい。タクシーも大事な公共交通機関のひとつと私どもは考えておりますので、ぜひその辺を、繰り返しになるが、よろしくをお願いしたい。

以上